

# の一部輸入停止へ

## ポプラなど4カテゴリー

7月18日、世界に対して、20系のプラスチック類の輸入を禁止する措置を講ずる。対象となるのは、20系のカテゴリー24種（生資源）の輸入を禁止することを通じた措置である。

環境を汚染していることが判明したことを理由にあげている。輸入禁止の調整対象としては、「生活系などのプラスチックスクラップ（ポストコンシューマー）のプラスチック・ドロス」未分別の古紙（雑紙）動物毛や綿、人工繊維製品などの各種繊維くずの四つのカテゴリーをあげている。

今回の通告は、今年3月の新たな環境・再生資源に係る規制施策「ナショナル・ロード（いわゆる「グリーンフェンスII」）と同じ路線にあるとされる。

ある有力リサイクル業界関係者は、「中国当局が詳細を明らかにしていないため、今後どうなるかはわからない。全面輸入禁止になると考えるのは早計だが、条件は厳しくなり、国や業界は施策や事業の高度化が必須になる。」

### クラッシュシャー導入

400tで再生砕石も



クラッシュシャー

「としつつ、例えばプラスチックで言えば、世界中から約730万tを受け入れている世界最大の需要国であり、いきなり『輸入を大幅に制限する』などとなれば、世界に多大な衝撃を及ぼすことになる。出方に注目したい。今後、通告を受けて、輸出先の各国から意見が上がり、WT Oがジャッジする流れになるだろう」と述べている。

### 小牧バイオガス発電所着工

アーキアエナジー（東京・港、植田徹也社長、03・6205・7579）は、愛知県小牧市に「小牧バイオガス発電所」を建設すると発表した。同社にとって3件目のバイオガス発電所建設計画では、総工費約35億円をかけてメタン発酵施設を核とする中間処理施設と発電施設を建設し、年間では一般家庭約1400世帯分に相当する773万kWhの電力を供給する。売電先は、中部電力を予定している。

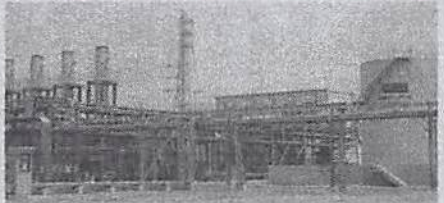
同社が手掛けた牧之原バイオガス発電所や南関東地区で計画が進んでいる案件と同様に、原料収集から生産物の消費までを「地産地消」で行う。資金には補助金等を一切使わず、全額民間資金による完全なプロジェクト・ファイナンス方式で調達。工事が完了後の運営も、可能な限り地元企業に依頼し、地方経済の活性化に寄与する。

### 中部エリア特集の紙面から

食品リサイクル推進事例	10面
木質バイオマス発電	11面
建廃最前線～現状と課題～	12面
最終処分場の今	14面
処理困難物特集	15面

### 国内最大級のバイオマス発電

神栖バイオプラント合同会社  
 パーム油使用、施設本格稼働  
 神栖バイオプラント（買取制度）により新電力に売電を行う。浜村



バイオマス発電施設

る他、施設内の熱利用に使われる。パーム油は東南アジアで長期契約により安定供給を実現した。

港から発電施設まではタンクローリーで運び、499kWhのLBFタンクに貯蔵し、デ

「安心・安全」環境にやさしく  
 地域産業の発展に貢献します。

対応  
 処理  
 504-177

バルチャ製ディーゼル発電機  
 に燃料を直接供給する計画。今後は稼働を継続し実績